



インフルエンザウイルス感染症



➤ 症状

通常の風邪と違って、突然の 38℃以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、関節痛、筋肉痛などがあります。低年齢になると、咳、鼻水などの呼吸器症状が中心になります。乳幼児では熱性けいれんや中耳炎の合併などがあります。また B 型インフルエンザは嘔吐、腹痛などの胃腸炎症状を認めることがあります。例年 12 月～3 月に流行します。

➤ 感染経路

接触感染、くしゃみ、咳などによる飛沫感染、流行すれば空気感染もあると言われています。

➤ 潜伏期間

1～2 日間

➤ 治療

安静にして睡眠を十分にとり、こまめに水分補給をしましょう。治療薬に内服（タミフル）、吸入（リレンザ、イナビル）注射薬（ラピアクタ）があります。年齢、症状に合わせて治療薬を選びます。症状が改善しても医師の指示通り内服、吸入をしてください。

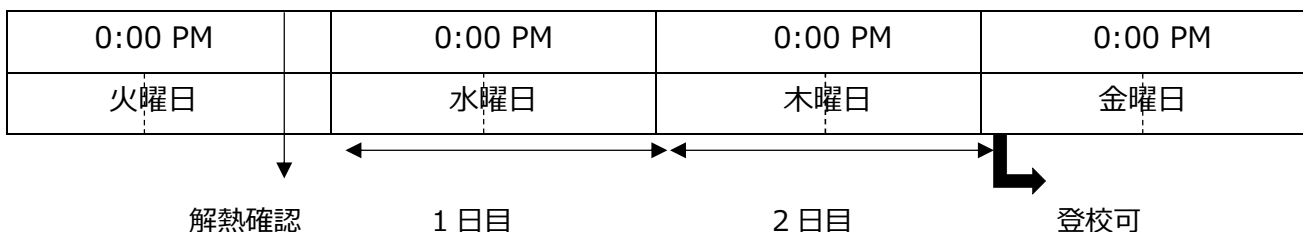
➤ 予防、注意点

外出後の流水、石鹸による手洗い、うがいが重要です。空気が乾燥するとウイルスが増殖するので、適度な加湿が有効です。外出時にはマスクをして予防しましょう。インフルエンザが流行したら人混みや繁華街への外出は極力控えましょう。小児、未成年者はインフルエンザに感染して急に走り出す、部屋から飛び出そうとする、意味不明なことを言う等の異常行動を起こす恐れがあるので、少なくとも 2 日間は一人にならないように配慮しましょう。

➤ 出席停止期間

発症後（発熱後）5 日間は出席停止です。さらに乳幼児では解熱した後 3 日、学童（小学生）以降は解熱した後 2 日経過したら登園、登校は可能です。

<解熱後 2 日とは>



日数の取り扱い：解熱した翌日から起算し、解熱した日は含みません。また発症後とは発症した翌日から起算し、発症した日は含みません。